

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1071000309		
法人名	(株)トミタ		
事業所名	グループホームなかよし倶楽部		
所在地	群馬県富岡市七日市676-4		
自己評価作成日	令和6年1月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和6年2月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

9部屋のみ小さなホームでホールを中心に皆さんが憩い、その隣の厨房では季節の食材を使った暖かな手料理が提供できている。
レク活動やのんびり過ごす時間にも調理の音や香りが漂い食欲を増していただけるように配慮している。
常に職員の目が行き届いているため、表情の変化や活動の様子で小さな体調の変化にも気づけるようになっている。体調の変化が見られた時には、家族や利用者の希望を確認し最期まで安心して過ごせるよう態勢を整えて支えられるようにしている。
外出の希望があれば柔軟に対応できるようにしてる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念の「利用者様が安心して暮らせるよう支援します」を実現するため、それにはサービス・良い生活・スタッフの笑顔の3つであると捉え、日々の利用者の生活を支えているのはそれらを提供する職員全員と考え、管理者を中心に職員は職場に私的なことは持ち込まないようにしている。事業所の玄関ドアを開けた時からそこは利用者の生活の場であり、相手の立場に立って言われていやなことはしない、職員は笑顔で、利用者の支援を行っている。医療機関の協力もあり、訪問看護師の協力の下、緊急時や看取りを行う協力体制が出来ている。食事は職員がその日のメニューを利用者や職員が食べたい物で考え、手作りで提供している。さらに、利用者の力量を日頃から観察・把握して、食事の一連の流れの中で関わる機会づくりを行い、食事を楽しむ支援を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	見える場所に掲示し時々皆で話し理念の共有ができるようにしている	理念をもとに、利用者の望むケアの実践にむけて、職員は私的な場から利用者の生活の場を切り替え、日々の関わりに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣保班に加入しているため地域の回覧板が回ってくる。行事(清掃活動)などには参加し交流を深めている。	地域の清掃活動に管理者が参加して、終了後には地域の方々と話に加わり交流するなかで、認知症の対応などの相談に関わっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の人とは管理者以外のスタッフも挨拶を交わす関係にある。相談事などがあればいつでも伺う準備はできている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染症対策として面会も玄関先での対応としているため、運営推進会議も外部の方を招き入れていない。今後の社会情勢を見ながら会議の方法を考えて行く。	2ヶ月に1回、利用者と職員で行事報告等を行い、市へ会議の内容を報告している。	区長・民生委員等の地域の方々や市の職員などの参加により、事業所の運営について双方向的に話し合う機会となることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	更新申請の時など窓口へ行くため伺うことがあれば確認している。今年度は実地指導が行われたため、直接アドバイスをいただくことができた。	日頃から、メールで情報交換を行っている。更新申請時やマイナンバー申請などは利用者と共に市の窓口に出向き、事業所の実情や利用者支援の取り組みなどを相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わない方針としている。時々会議の場でケアについて話し合い身体拘束を行わない方法を皆で考えている。玄関や危険な個所は施錠しているが、外出の希望があれば共に出かけるようにしている。	身体拘束を行わないケアを職員全員で話し合いながら、見守り対応で関わっている。外部研修にオンライン参加し、職員への伝達研修を行っている。安全面に配慮して、ベッド下の足元には動きをキャッチする音センサーを使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を行わないケアについて話し合っている。言葉の使い方や虐待になるリスクがあるため、声の掛け方についても工夫している。外部での研修が開催されれば交代で参加できるようにして行く。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会があれば参加して学ぶようにしている。成年後見人制度は利用している方がいるため、相談しながら支えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の契約時には説明を行い納得をいただいた上で契約を締結している。疑問点がある時にはその都度説明を行い理解していただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナの影響で直接面会は少ないが毎月の様子を写真や手紙にして送っている。家族からはメールや電話での連絡をいただく事があり、意見などあった時には反映できるようにしている。	意見等があれば、職員に朝礼時に確認し、検討して意見を反映させる仕組みとなっている。コロナ禍や遠方で家族に会えないが、メールで報告や情報交換を行い、言える環境づくりをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は毎日の朝礼時に職員の意見を聞く時間を設けている。職員から意見が出た時には、毎日の日報などで会社に報告を行っている。必要な時には個別面談を行える機会を設けている。	申し送り時に職員から意見や要望を聞き、ケアに反映している。また、勤務希望や研修希望なども取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の働きをしっかりと見て給与に反映できるようにしている。個々の勤務については職員の希望を取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会があれば参加できるようにしている。最近では遠隔での研修も増えてきているので希望次第では参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業・異業種間での連携を図るようにしている。最近では遠隔での研修や会議も催されているので、参加できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所が決まった時から本人の話を伺い、不安を感じないような支援方法を考えている。時間の経過と共に変化して行く要望などには随時耳を傾けて確認してる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所を検討している段階で、不安な事を聞き取り今後の過ごし方や要望を確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者と家族が困っている事や必要としている事柄を確認し、必要な支援方法を考えている。時間の経過と共に変化する要望にはその都度対応できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホーム内で一人一人の生活を支えるだけでなく、共に支えあえる関係が作れるようにしている。出来る事があればやっていただき、できる喜びを感じていただくようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月末に家族向けに写真や文章を作成し送らせていただいている。レクの様子や思いがけない表情などを送り、現在の様子を確認していただいている。受診した時は、家族宛にメールや電話でその時の様子を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所が長くなると馴染みの人との関係を維持する事が難しくなるが、できるだけ支えて行けるようにしている。馴染みの場所はドライブ外出の時に回り景色を楽しんでいただくなどの支援をしている。	職員は、生活歴や家族からの情報をもとに、馴染みの関係を把握し、日ごろの会話や関わりでつなげるよう努めている。外出時やドライブ時に自宅へ郵便物を取りに行き、自宅の様子や近隣の様子を見るなど、途切れないよう取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	年齢や性別が異なる利用者をよく観察して、良い関係が築けるよう支援している。トラブルが起きないように、随時席替えなども行っている。楽しい時間が過ごせるよう職員も近くで様子を確認させていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用の終了はほとんどの場合逝去された後なので、悲しみを分かち合い必要な支援や相談をようしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族かと話を伺い、希望があればその思いを職員皆で共有し少しでも叶えられるよう支援している。その時々で思いは変化して行くので、コミュニケーションをとりながら確認している。	報告・連絡・相談を職員に徹底し、利用者の情報はすべて管理者に報告し、管理者は連絡ノートに記入して申し送り伝えるなど、職員全員で情報を共有している。その人らしく生活するには、個々にあった関わりの中で、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や暮らし方はそれぞれ異なるので、サービス提供前から確認している。入所年数が経過すると思いは変化する事もあるので、その都度把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体機能が低下しないよう毎日の運動は欠かさないようにしている。入浴や季節の行事・誕生日祝い以外は自分の自由に任せている。レク活動の参加も好まない人には強制しないのできる事を探している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	半年に一度ケアマネを中心に介護計画の見直しを行っている。状態が変化した時には随時話し合いを行い見直しをしている。	ケアマネジャーも日々の関わりに加わり、管理者中心に利用者の思いを把握し、介護計画につなげている。職員の負担にならないよう、ケア記録を簡素化している。	介護計画に沿った利用者ケアを行った個別の記録がされることにより、介護計画と日々の記録が連動することに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護計画には生活の様子を中心に記録している。変化や気づきがあった時には随時記録を行っている。ケアマネは日々の記録を見て計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホームに入ると生活の様子を家族が直接見る事ができない場合が多いため、日々の様子を毎月の手紙で知らせるようにしている 個別の希望には柔軟に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今まで利用してきた資源を確認し、必要な時には活用できるよう支援している。体調の変化があり最期を支える時には必要な支援を探している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの人が入所前から通院していた病院の継続を望まれることが多い、定期的に通院に同行して現在の治療などを確認している。最期までホームで過ごす事を望まれた時には、それを支える医療機関と連携して体制を整えるようにしている。	かかりつけ医の受診継続を、家族の希望により通院介助の送迎を行い支援している。かかりつけ医との関係づくりを行い、近隣医療機関であるため訪問診療も視野に入れながら通院支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在は施設内に看護師は不在となっている。かかりつけの医療機関看護師と関係作りをしている。看取りを支える時には訪問看護を契約して共に支えられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院して治療が必要な時には家族と共に説明を聞き必要な支援を行っている 入退院や必要な物品の準備や洗濯なども支援している 病院関係者とは関係作りに努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の段階から急変や病気の進行の時の関わり方について契約書を交わしている。体調に変化あった時には随時話し合いをして、必要な支援方法を相談している。ここ数年は同じチームでの支援ができています。	入居時に、重度化や看取りについて確認書を交わし、事業所が出来るケアの説明を行っている。看取りは生活の延長にあると考え、希望時は家族、医師、訪問看護師との協力体制で、多くの看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	転倒事故や急変時の対応は定期的に職員間で学んでいる。外部での研修がある時には交代で受講できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年に1回以上は行うようにしている。地域の避難場所は遠いため、近隣の空き地への避難を依頼している。訓練には近隣からの参加はないがいつでも手助けを求められる関係は作っている。	避難訓練は、年2回消防署の指導を受けながら行っている。地域の方の協力もあり、避難時の見守りの役割を依頼している。備蓄は、3日間は準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	関わる時に言葉使いを含め人格を尊重するような言い方を心がけている。それぞれ育った環境も違うので、職員はそれらを理解して気分を損なわないような対応を心がけている。	その人らしさ、その人に合わせた言葉使いなどに配慮して、声掛けをしている。日々の支援のなかでは、入浴は一人ずつで個浴となっている。トイレ誘導への声掛けは、小声で周りに聞こえないよう気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	それぞれ好みの過ごし方があるためその過ごし方を大事にしている。レク企画をした時など参加の意思は、希望を確認できるように話をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体操などのレク活動は皆で行っているが他は自由に過ごしていただいている。暖かな日には希望を取り入れた外出や好みのレクの支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の時に衣服を交換している、準備の段階で季節に合わせた衣服を整えるようにしている。誕生日やクリスマスプレゼントで似合いそうな衣服を選ぶようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや食後の食器やテーブル拭きなども、できる範囲で手伝っていただくようにしている。皆が過ごす所で調理をしているため、音や香りも楽しんでいただいている。	生活歴や日々の関わりの中から出来る事を把握し、声かけをしながら、野菜の皮むきやテーブル拭きなどを職員と共に行っている。利用者・職員が食べたい物を、季節の物を取り入れて、職員が手作りで提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	季節の野菜を中心にバランスの良い食事づくりをしておいしく召し上がっていただいている。食事量は毎回記録に残し少ない時には補食で補うようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの大切さは職員が理解し、毎食後口腔ケアの援助を行っている。定期的に歯科医のケアを受けている人もいる。今年度から歯科医による検査を取り入れ必要な治療を受けられるようにした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎回記録をつけて排泄パターンを把握し定期的にトイレ誘導をしている。夜間はおむつを使用している、日中起きている時間はトイレ誘導を行っている。	トイレでの排泄は、利用者の尊厳を保つ事と捉え、排泄支援を行っている。利用者の日頃の生活リズムを基本に、排泄パターンを把握し、サインも見逃さず誘導している。夜間は、ベッドの下のセンサーを活用して誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員で排便状況をチェックできる表を確認、個々に合わせた便秘薬なども把握している。水分や適度な運動などは声を掛けて促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望があればいつでも入浴ができるようにはしている。現在は自力で入浴できない人がほとんどのため危険防止のために職員の人数を確保して入浴を行っている。	最低週2回の入浴を基本に、入浴日には職員を増やしてゆったり入浴できるよう個別対応で行い、全身状態の把握もしている。また、入浴剤や歌などで楽しめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠がとれるように、日中は活動していただいている。昼食後の午睡は促しているが、休まずに活動をしている方もいる。ADLの変化でベッドで過ごす時間が増えた方には頻回に声を掛けをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれ異なる疾病や症状があるが、薬の目的などについては理解していないケースが多い。その代わりに職員が把握しており、服薬の支援を行っている、症状の変化についても職員が確認して受診の時、医師に報告をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の好みに合わせレクや活動を考えている。体操は毎日行いそれ以外の活動は好みに合わせて取り組めるようにしている。好まないことは強制しないで、役割などもできる範囲でお願いしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	気候や景色の移り変わりなどを感じていただくために、定期的にドライブにお連れしている。加齢とともに歩行が困難になってきているため、無理な歩行は控えて車窓から楽しめるようにしている。家族の希望があれば共に出かける事は支援している。	気分転換や五感の刺激をと、日々の散歩や庭へ日常的に出ている。また、ドライブも定期的に行い、家族の希望があれば墓参り等にも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホーム内ではトラブル防止のため金銭の所持はしていない、必要な物は職員が家族から預かったお金で代行して購入している。感染症が流行中の昨今ではお店への出入りは控えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は希望があれば支援できるようにしている。思いが伝えられなくなった人には職員が聞き取り毎月家族宛に送る手紙に様子を記入して送らせていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールでは動きが妨げられないよう物を置かないようにしている自分の席がわからないで混乱することが無いよう名前を記してある。テーブルのパーテーションは、トラブルを防いだり自分の空間を作るために役立っている。	オープンキッチンとなっているため、食堂から居間全体を見渡せ、匂い・音などの生活感が感じられる。居間には一段高い場所に畳が敷かれ、所々に椅子やソファが置かれて、居場所作りとしている。壁には、誕生日の写真や大きな手作りカレンダーが飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の席は一応決まっているが、食事やお茶の時間以外は好みの場所で過ごせるようにしている。日当たりのいい窓辺でくつろげるようにソファを置いて憩いの時間を過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の好みの物は手に取れるように置かれているが、ほとんどの人が日中はホールで過ごし休む時だけ部屋に戻るので多くは置かれていない。ベッドで過ごす時間が多くなった時には見える部分に写真などを飾るようにしている。	各居室入り口には、表札が貼られている。室内にはテレビ・椅子・写真・位牌・ペットの骨壺・観葉植物等、それぞれ個性豊かな馴染みの物が持ち込まれ配置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの位置や各居室などにはポスターを掲示して文字と絵で分かりやすくしてある。危険個所の浴室などは掲示せず職員がいる時のみ開閉するようにしている。		